

第6回江別市行政審議会 会議録（要点筆記）

日 時：平成30年4月4日（水） 10:00～12:00

場 所：江別市民会館 小ホール

出席委員：押谷一会長、碓井和弘委員、奥村昌子委員、安孫子建雄委員
岸本佳廣委員、萩原英樹委員、西脇崇晃委員、深瀬禎一委員
山崎雅江委員、成田裕之委員、田原久美子委員、豊田選子委員
中井和夫委員、三ツ井瑞恵委員、山崎啓太郎委員（計15名）

欠席委員：田口智子副会長（計1名）

事務局：北川企画政策部長、白石企画政策部次長
政策推進課中島参事、天明屋主査、山口主任

傍聴者：4名

■開会

■議事

■えべつ未来づくりビジョン＜第6次江別市総合計画＞改訂素案について

【事務局からえべつ未来づくりビジョン＜第6次江別市総合計画＞改訂素案について説明】

【資料】えべつ未来づくりビジョン＜第6次江別市総合計画＞ 新旧対照表

【質疑】

○押谷会長

えべつ未来づくりビジョンは、江別市の政策基盤となるものですので、市民の目線や立場でどう対応できるか、慎重に検討する必要があります。

○中井委員

2点、意見があります。

1点目、7ページに「コンパクトなまちづくり」と記載がありますが、このとおりの考え方で進めるべきだと思います。

先日、国立社会保障・人口問題研究所から2045年の人口推計が発表されました。江別市の人口は、現在の12万人から8万5千人に減少すると推計されていたので、今回の見直しでは、この点を踏まえていただきたいと思います。

2点目、13ページに「江別市の魅力や特徴的な取組を広く周知（シティプロモート）」と記載がありますが、この部分でのシティプロモートの考え方は、「周知」ではなく、一歩踏み込んだ「発信」ではないでしょうか。文言を周知から発信に変えると、より能動的な表現になるのではないかと思います。

○押谷会長

1点目につきましては意見として承ります。

2点目は、09-02透明性と情報発信力の高い市政の推進の（2）広報の充実に記載さ

れているシティプロモートについて、周知するとともに情報を発信することが重要という意見でしたが、「江別市が発信する情報を市民が入手しやすい環境を整備し、広報を通じた情報共有を推進」と記載されています。

「周知（シティプロモート）」とすると、シティプロモートの目的が周知だけに留まり、情報発信が抜けてしまうという懸念でしたので、シティプロモートという文言を別の場所に記載することも可能ですが、現段階では、文言として入っていると理解していただきたいと思います。

○中井委員

シティプロモートについて、「市民に向けて発信する」と記載されていますが、広報の部分では、市民だけではなく、対外的な発信を高めていかなければならないと思います。そのため、発信が先に記載された方が良いと思いましたが、それ以上はこだわりません。

○押谷会長

「江別市の魅力や特徴的な取組を広く周知」と「状況に応じて江別市が発信する情報を市民が入手しやすい環境」という2つに分かれているということだと思えます。「江別市の魅力や特徴的な取組を広く周知」では、対外的に周知する内容であり、また、「状況に応じて江別市が発信する情報を市民が入手しやすい環境」は市民向けとなっています。「江別市の魅力や特徴的な取組を広く周知」という部分を江別市の魅力を発信する表現にすることを事務局、田口副会長とともに検討させていただきます。

■えべつ未来戦略素案について

【事務局からえべつ未来戦略素案について説明】

【資料】えべつ未来づくりビジョン〈第6次江別市総合計画〉

えべつ未来戦略（素案）2019年度（平成31年度）～2023年度

【質疑】

○押谷会長

えべつ未来戦略は、えべつ未来づくりビジョンと同様に、今後パブリックコメントを実施する予定となっております。パブリックコメント終了後に再度、当審議会で議論していきませんが、現素案についての意見をお聞きしたいと思います。

○安孫子委員

えべつ未来づくりビジョンは、2019年度～2023年度の計画ですが、年度ごとに比較すると、毎年大きな変化はなく、変化していても気がつかない場合があります。

5年後、10年後の江別市の姿は、現在と傾向が変化していると思いますが、現在の計画のままで良いのでしょうか。

今後、パブリックコメントを行いますが、市民にとっては関係ないという話にもなりかねませんので、行政でどのように資料を出すか十分検討する必要があります。

○押谷会長

えべつ未来戦略やえべつ未来づくりビジョンの本体に入れることは難しいですが、パブリックコメントを求める際には、人口推計の問題や江別市の現状を資料として加え、今後予想

される江別市の社会環境の変化を説明することが必要だと思えます。

パブリックコメントは、様々な施設で募集され、広報でも記事が作られると思えます。江別市の人口は現在、社会増となっていますが、今後大きな人口減少が予想されていること、人手不足がいつまで続くのか、人材育成についてなどの背景から、市の施策としてどのようなことが必要なのかを検討していただきたいと思えます。

○中井委員

2点、質問と意見があります。

1点目、前回の行政審議会では、ともにつくる協働のまちづくりの中に、大学が活躍するまちづくりとされていましたが、今回、大学はどのような位置付けになるのでしょうか。

資料3ページの全体像では、以前と大学の位置付けが変わっていませんが、未来戦略の一つとするかしないかは大きな変更であるため、事務局の考えを聞きたいと思えます。

2点目、戦略基盤である「えべつの魅力発信シティプロモート」では、あくまでも市民のみに目が向いていますが、市民の反応だけではなく、市外の方にどう発信するかという数値目標があっても良いのではないのでしょうか。

○押谷会長

1点目、大学については、2ページ(2)戦略を実現させる基盤についての中に「大学」と記載されていますが、人口12万人の都市で4大学1短期大学があることは、大きな強みだと思えます。また、江別市の人口の約1割が大学生、短期大学生であることも、地域資源を生かすという意味も含めて、基本的な考えを記載してほしいと思えます。

関連して、6ページ「戦略実現に向けての数値目標」には、全体基盤である協働について関連戦略が3つ記載されていますが、大学、産業界、金融業界、市民団体、行政など多様な主体による協働の取組をより具体的に設定してほしいと思えます。市がどこまで把握できるかは、未知な部分がありますが、協働の取組を数値として挙げる必要があります。産学官民の役割だけではなく、連携を取ることが出来る取組を検討していただきたいと思えます。

2点目、シティプロモートについて1点目と同様に戦略実現に向けての数値目標がありますが、その文言を再度考えたいと思えます。現段階でのシティプロモートの数値目標は「江別市の情報発信が高いと思う市民割合」としており、江別市民がどのくらい関心を持っているか、または、発信力が高いと思っているかという割合です。しかし、今後は、市外の方が江別市の魅力をどう捉えているかという評価が必要だと思えます。観光入込客数を伸ばすことを目標に掲げていますので、住み替え相談に来た方などに江別市の魅力についてのアンケート調査を行い、江別市内のみの評価で満足するだけではなく、市外の方の厳しい意見も聞く必要があります。

○奥村委員

パブリックコメントの際に行う説明は、データに基づいた内容を提案するとありましたが、なぜこの数値目標が設定されているのかという説明も必要だと思えます。数値目標を立てる際には、その目標に対しての計画を作り、事業を展開していきますので、その数値目標が課題の解決に対して的確なのかという再検討や各担当部署での説明が必要だと思えます。

また、同じく数値目標についてですが、市民の主観による目標が多いため、外部の評価や

各部署の実績をもう少し入れてはいかがでしょうか。ひとつの内容に特化してしまうと、その部分のみに焦点が当たってしまう可能性が懸念されます。

○岸本委員

数値目標について、2点意見があります。

1点目、9ページ戦略2「安心して子どもを産み育てることができるまちづくり」について、えべつ未来づくりビジョンには、子育て世帯の定住化について記載がありましたが、市外からの子育て世帯の移住人口の推移や、子どもを安心して育てるまちだからこそ江別市に来るといった数値目標が設定されていても良いのではないのでしょうか。

2点目、11ページ、12ページ戦略3「子どもから大人までいきいきと健康に暮らせるまちづくり」について、江別市は平成29年度に健康都市宣言を行いました。この内容は高齢者福祉なども関係してきます。

平均寿命と健康寿命が10歳近く離れている状況で、国は健康寿命を平均寿命に近づけるための施策も行っています。重要業績評価指標に例示が記載されていますが、数値化するならば、要介護の認定者割合も数値目標にしても良いかと思えます。

○押谷会長

市が把握している数値や数値目標として分析できる指標を設定することが重要だと思います。そうすると、市民が戦略を見て、自分たちに何が出来るか把握することが出来るようになると思います。

○三ツ井委員

昨年、地域おこし協力隊やシティプロモート担当の方とイベントに参加しましたが、その際に、札幌駅のチカホで江別市を知っているか、また、どのような印象を持っているかなどについて、100名の方を対象にアンケート調査を行いました。昨年度の地域おこし協力隊の活動実績として、アンケート調査の結果があり、江別市に対する認知度が出ていますので、今後、シティプロモートの一環として、地域おこし協力隊の力を借りながら、積極的に数値を取る活動も必要だと思います。

○深瀬委員

先日、バス交通について、担当者と話をさせていただきました。江別市では、中央バス、JRバス、夕鉄バスが運行しておりますが、中央バスでは運転手不足で現在の路線が維持することが難しいため、4番通線を廃止するとしており、そうすると野幌美幸町や野幌屯田町に住んでいる方は通院や買い物が難しくなってしまいます。このような現状を受け止め、具体的な数値目標を設定する必要があると思います。

戦略の数値目標を具体化する際にどのような考えで、そのような結論に至ったか、理由が記載されていません。行政審議会では、様々な計画や評価について議論していますが、市民の考えからは離れているように感じます。

○押谷会長

当審議会では各部会に分かれて担当課から内容を聞きましたが、十分ヒアリングが出来なかった部分もあったかもしれません。行政審議会では、江別市の大枠である総合計画について議論していますが、市民自治の観点からは、具体的な施策を市民自らが検討すべきだと

思います。各審議会、各委員会、議会などで施策について議論していただきますが、行政は市民との協働を念頭に置いて施策を作ることが必要だと思えます。

○西脇委員

4 ページ（5）「将来都市像実現までの3つのSTEP」について、STEP 1、STEP 2 までは納得できますが、STEP 3 の説明は、これまでのシティプロモートが戦略基盤であるという説明とは異なると思えます。STEP 3 の記載内容はそのとおりだと思えますが、シティプロモートの役割は、高められた魅力を発信するだけでなく、戦略推進の基盤となる部分の一部分を切り取った説明になっています。将来都市像の実現を分かりやすく説明する表現方法のひとつだと思えますが、この部分の記載がない方が、分かりやすいと思えます。

仮に図を記載するならば、STEP 1 と STEP 3 を逆にすると、基盤に基づいた戦略の推進となり、分かりやすくなるかと思えます。STEP 3 の表現のみであると、成果を発表するだけの役割になってしまうので、この部分を削除するか、他のページとの整合性を考えて、図を見直した方がよいと思えます。

○奥村委員

全体基盤と戦略基盤は両輪であるという事務局からの説明でしたが、3 ページの全体像も同じように、シティプロモートは戦略の枠外として、どの戦略に対してもプロモートすることだと思えます。

4 ページのSTEP 3 は、良い部分だけではなく、協働や戦略を推進することもあわせてプロモートすることにより、誰にとっても分かりやすい図にする必要があると思えます。

○押谷会長

3 ページのえべつ未来戦略の全体像は、戦略の全体基盤として「ともにつくる協働のまちづくり」があり、戦略基盤としての「えべつの魅力発信シティプロモート」が枠の外に出した方が分かりやすいという意見です。

○安孫子委員

個人的に横文字が好きではないということもありますが、誰にでも理解してもらうならば、シティプロモートがどのような定義なのかを、もう一度説明していただくとよいと思えます。

えべつ未来づくりビジョンの13 ページにも「周知（シティプロモート）」と記載がありましたので、そちらも理解しづらい部分だと思えます。

○押谷会長

そもそもシティプロモートとはどういう意味でしょうか。事務局からシティプロモートについて、ご説明いただきたいと思えます。

○事務局

シティプロモートの定義は、えべつ未来戦略という冊子の1 ページ【用語解説】に記載しております。

シティプロモート自体は、様々な自治体でその用語を使用しており、各自治体によって若干定義が異なりますが、江別市では、「まちを発展させるために、人や物や情報などの資源を利活用していく取組であり、本計画では、「シティプロモート」を単なる情報発信にとど

めずに、江別市の持つ魅力や優位性を市内外に、効果的に発信していく取組と考えています。」としております。

○安孫子委員

そのような定義であるならば、図が違うように感じます。

○押谷会長

この定義が記載されているのは別の冊子になりますので、今回の見直しでシティプロモートの位置付けを図に合わせた形で記載していただきたいと思います。

○岸本委員

西脇委員から指摘があったように4ページの図は、誤解を招くと思います。

3ページの図については、シティプロモートを各戦略から外すと分かりやすいという意見がありましたが、シティプロモートは各戦略と同時進行であり、協働は、前段階のプラットフォームという意味合いのため、私はこのままで良いと思います。今の素案段階では、白黒印刷のため、見づらくなっていますが、カラー冊子にすると図は分かりやすくなると思います。

○押谷会長

まず、4ページSTEPについては、ステップアップしていくというよりも全体を見渡すことが重要だと思います。そのため、現在のSTEPの表記は、趣旨と若干異なるため、削除した方が良いと思いますが、いかがでしょうか。

○各委員

了。

○押谷会長

それでは、4ページSTEPについては、外す形で田口副会長、事務局と調整させていただきたいと思います。

次に、3ページの図については、各委員でも意見が異なりましたが、今回の未来戦略を見ますと、シティプロモートに向けて各戦略が組み合っており、その基盤が協働のまちづくりとなります。

図にするのは難しいですが、デザインに長けている山崎（啓）委員と内容を含めてどのような図にするか検討していきたいと思います。

○田原委員

私は3ページのシティプロモートは各戦略の外の位置付けにすると良いと思いました。しかし、3ページの図で、シティプロモートを枠内に入れるならば、4ページのSTEP3は不要だと思います。

○押谷会長

シティプロモートの位置付けについて、3ページ、4ページの現在の図の状態では整合性が取れていないという意見でしたので、全体的な取組として検討したいと思います。

○碓井委員

5ページのPDCAサイクルで重要なのは、計画実行のために現場をどれくらい理解しているかだと思いますし、現場を知る仕組みづくりも必要になると思います。

現場を知り、人、企業、組織を生かす力を引き出すことが重要であり、そうでなければP D C Aが上手く機能しないと思います。

○押谷会長

市民のために市民が自ら作る計画であるということを十分に踏まえて、現場の声を生かすことが求められています。まだ先の話になりますが、完成した際にはどう活用していくかを検討していただきたいと思います。

○山崎（雅）委員

2023年度までの総合計画は既に市民も目にしていると思います。今回、計画を見直した場合に現在の計画はどうなるのでしょうか。

新しく製本するならば、印刷費もかかるのではないのでしょうか。

○押谷会長

今回は、総合計画の中間見直しのため、現在の計画は改める形になります。今後、後期に向けて新しい冊子を作成する際には、印刷費もかかるため、その点につきましては事務局から説明願います。

○事務局

見直しを行う際には新しい冊子を作成しますが、可能な限り費用を節減するため、無駄が出ないように数を調整し作成したいと思います。

○押谷会長

より良いものを作成するためにコストがかかるのはやむを得ませんが、各部署において行政審議会で審議された内容がいかにも実現性を持つのが重要であり、市民のために作られる計画であると理解していただきたいと思います。

○成田委員

6ページの基本的方向に「大学や学生の得意分野を活かしたまちづくりを推進する」と記載があるならば、「ともにつくる協働のまちづくり」の数値目標として、「地域で活動した学生数」などを数値目標として設定しても良いのではないかと思います。

○押谷会長

小学生、中学生、高校生、大学生、短大生なども含めると江別市の人口に対する若者の比率は高いため、数値目標としての記載を検討したいと思います。

○豊田委員

市民目線での全体的な感想になりますが、これからパブリックコメントで意見を聞く際や冊子を作成する際に、横文字を使用すると、すぐには認識しづらく、意味が分からないということも考えられます。

先程シティプロモートの定義についての話がありましたが、冊子を作成する際には、浸透している横文字はそのままでも、浸透していない横文字については日本語に置き換えると市民も理解しやすいと思います。

○押谷会長

分かりやすい言葉で作成したいと思いますので、事務局も協力お願いします。

○萩原委員

10ページ(2)教育内容の充実は重要ですが、客観的に評価することが難しい内容だと思えます。子ども自身が評価するのか、または、親が評価するのかが分かるような工夫をしていただきたいと思います。

次に、戦略の中では、食と農が重要なものとして位置付けられていますが、観光、教育、環境、経済にも大きく関わる部分ですので、つながりをより強化していただきたいと思います。

総合計画には、まちづくりのための重要な内容が記載されていますので、自治会関係者やPTAなども含めて、より多くの層の市民が目にするように検討していただきたいと思います。

○山崎(啓)委員

今回の計画の基盤である「協働」を推進することは、素晴らしいことですが、同時に難しいことだとも思えます。市内向けのシティプロモートが記載されていましたが、今後、政策展開をする際には、江別市民が江別市をさらに好きになることが必要ですので、重視していただきたいと思います。また、江別市民が江別市をさらに好きになること自体が、市外に対してのシティプロモートになると思えます。

次に、10ページに放課後児童会入会児童数が重要業績評価指標として例示されていますが、放課後児童会が不足している場合、受け皿である放課後児童会自体を増やさなければ、入会児童数も増加しないのではないのでしょうか。

○押谷会長

今回、重要業績評価指標に例示されている内容も含めて指標を設定することは難しいため、別の機会に議論したいと思います。

○中井委員

江別市市民参加条例の結果、パブリックコメントの件数は非常に増えています。しかし、パブリックコメントへの意見は極めて少ないのが現状です。そのため、さらに工夫しなければ期待したものにはならないかと思えます。

また、市のパブリックコメント実施の周知として、ホームページに記事が記載されますが、どのくらいの市民がホームページを見て、反応しているのでしょうか。パブリックコメントの種類が多ければ良いというのではなく、参加者数の増加が総合計画の見直しには必要だと思えますので、是非検討していただきたいと思います。

○押谷会長

当審議会の内容ではありませんが検討していただきたいと思います。

パブリックコメントへの参加は、資料をよく読む必要があるため、市民にはハードルが高い部分があると思えます。行政の負担は大きくなってしまいますが、説明会など様々な工夫が必要だと思えます。

今回の総合計画のパブリックコメントでは、随時、説明を行っていただき、総合計画が市民自らのものであるという意識を高めていく必要があります。山崎(啓)委員から、江別市民がもっと江別市を好きになるという発言があったように、これが基本的な条件となります。

本日参加されている各委員、傍聴者が、家庭、職場、地域などでパブリックコメントを行うことを周知していただき、多くの意見を出していただきたいと思います。厳しい意見も出てくると思いますが、より良い行政の仕組みになると思いますので、総合計画が市民の市民による市民のためのものであるということを、各委員が十分に理解していただきたいと思います。

本日、様々な意見が出たため、パブリックコメント実施の前に田口副会長、事務局とともに内容を整理したいと思います。一任いただいでよろしいでしょうか。

○各委員
了。

■その他

■次回の審議会について

■閉会